

社会学部報

◇学部研究会

- 6月17日 発表者 村山冴子教授
「老人福祉の課題」
- 9月9日 発表者 田中国夫教授
「小集団教育の一つの試み — 基礎ゼミについて — 」
- 10月28日 発表者 W. デーヴィス教授
「文政13年の御蔭参りについて」

◇海外出張

- 田中国夫教授 昭和56年3月9日から3月19日まで「社会的態度の比較文化研究」のためバンコックへ。
- 余田博通教授 昭和56年6月4日から6月12日まで「中華人民共和国・吉林大学との友好関係形成」のため長春へ。
- 倉田和四生教授 昭和56年7月6日から8月21日まで「カナダの人口問題・都市問題について研究」のためトロントへ。
- デーヴィス教授 昭和56年7月7日から8月25日まで「宗教社会学会のスピーカー」として出席のためカナダ・トロントへ。
- 万成博教授 昭和56年7月12日から7月16日まで「シンガポール学術事情調査」のためシンガポールへ。
- 武田建教授 昭和56年7月12日から7月18日まで「国際社会事業学校連盟理事会」に出席のためフィリピンへ。
- 嶋田津矢子教授 昭和56年9月18日から9月30日まで「社会福祉施設見学および研究」のためオーストラリア・ニュージーランドへ。
- 森川甫教授 昭和56年9月29日から10月20日まで「パスカル学会出席およびカルヴァン研究」のためフランスへ。
- 杉山貞夫教授 昭和56年10月10日から10月21日まで「国際人間工学会連盟理事会」に出席のためアメリカへ。

◇会員の新著

- 倉田和四生教授 「地域住民組織の実態分析」
(共著)(都市研究報告第4号)昭和55年12月
勁草書房
- 中野秀一郎教授 「プロフェッションの社会学
— 医師・大学教授を中心に — 」 昭和56年
2月 木鐸社
- 山路勝彦助教授 「家族の社会学」
昭和56年3月 世界思想社
- 遠藤忽一教授 「現代の社会学」(共編)
昭和56年4月 ミネルヴァ書房
- 安田三郎教授 「基礎社会学 第Ⅱ巻」(共編)
昭和56年4月 東洋経済新報社
- 田中国夫教授 「家庭のしつけ・家庭教育選集
2」(共著) 昭和56年5月 金子書房
- 森川甫教授・春名純人教授 「カルヴァンの信
仰と思想」(共著) 昭和56年6月 すぐ書房
- 武田建教授 「親と子の行動ケースワーク」
(共著) 昭和56年8月 ミネルヴァ書房
- 中山慶一郎教授 「統計学概説」(共著) 昭
和56年6月 啓文社
- 山本剛郎助教授 「大都市の衰退と再生」 昭
和56年3月 東京大学出版会
- 真鍋一史教授 「新聞閲読と消費者行動に關す
る調査のデータ解析」昭和56年6月 朝日新聞
社

学 会 消 息

◇数理社会学研究会

昭和56年度は以下の研究会が開催された。

第2回研究会（3月28日～29日）於関西学院千刈セミナーハウス。

第3回研究会（10月11日～12日）於ニュー目黒。

いずれの研究会にも本学からは海野道郎助教授と安藤文四郎助教授が出席し活躍した。

◇関西社会学会

第32回関西社会学会大会は昭和56年5月30日（土）と31日（日）の両日甲南女子大学で開催された。本学からは真鍋一史教授が「世論研究における理論と調査の統合の試み——L. Guttmanの研究動向をめぐって——」と題して研究発表を行ない、加藤春恵子教授と遠藤惣一教授はそれぞれテーマ部会の「文学の社会学」と「都市の社会学」において討論者として活躍した。また大学院の藤原英男も「言語学上の意味論による1953年のパーソンズのシンボル概念をサインの概念から区別する試み」のテーマで研究発表を行なった。

◇異文化間教育学会

異文化間教育学会第2回大会が昭和56年6月28日（日）と29日（月）の両日神戸大学において開催された。本学からは真鍋一史教授が参加し、シンポジウム「異文化間コミュニケーションにおける促進と阻害の要因」と題する発題を行ない、活発な討論が展開された。

◇日本行動計量学会

第9回日本行動計量学会大会が昭和56年9月3日から5日まで名古屋大学において開催され、本学からは海野道郎助教授が「意思決定過程モデルによる二人社会の分析」というテーマで研究発表を行ない、また「社会行動のモデル論」のセッションでは座長をつとめた。

◇日本心理学会

日本心理学会第45回大会が昭和56年9月17日から4日間、東京の国立教育会館で行なわれた。本学からは田中国夫教授がシンポジウム「個人差と個性」において「タレントのユニークネス」と題する発題を行ない、大学院の井上和子は「態度変容における一貫性理論の幾何学的モデルによる検討」と題する個人発表を行なった。

◇日本社会心理学会

日本社会心理学会第22回大会が昭和56年9月21日から2日間、東京、成城大学で開催され、本学からは大学院の岩淵千明が「自己意識尺度についての研究」と題する研究発表を行なった。

◇日本社会学会

日本社会学会第54回大会が昭和56年10月10日（土）と11日（日）の両日、慶応義塾大学において開催された。本学からは安田三郎教授がテーマ部会「生活意識における“変わるもの”と“変わらないもの”」において「日本社会論の研究の展望と問題」と題する発題を行ない、真鍋一史教授と海野道郎助教授は「社会学研究法」の部門において、それぞれ「L. Guttmanの人間行動の構造に関する諸法則——その検討と追試——」、「個人的決定と社会的決定——時間不変不均質社会の分析——」というテーマで研究発表を行なった。また大学院の藤原英男は「理論」部門において「パーソンズの1953年の表出的シンボリズム等の概念の分析」と題する発表を行なった。

◇日本広告学会

日本広告学会第12回全国大会は昭和56年10月17日（土）と18日（日）の両日近畿大学において開催された。本学からは真鍋一史教授が参加し、「広告をめぐる世論——広告表現とその受容を中心として——」というテーマで研究発表を行なった。なお、この学会において真鍋教授の「広告をめぐる世論」と題する論文に対して学会賞（学術論文部門）が授与された。

◇近畿都市学会

昭和56年10月24日(土)、近畿都市学会の秋の大会が「80年代のニュータウン」をテーマにして関西学院の千刈セミナーハウスで開催された。まず恒例のエクスカージョンとしては9時30分から12時まで北摂ニュータウンを見学したあと、セミナーハウスに向い、午後1時から研究発表が行なわれた。

最初に、三田市長の特別講演「三田市基本構想について」、ついで西川勉氏による「北摂・北神のニュータウンについて」が発表され、2時から一般報告が行なわれた。一般報告6件のうち、倉田和四生教授と大学院の赤坂真人によって「高倉台ニュータウンのコミュニティ活動」が報告された。

◇日本新聞学会

日本新聞学会の創立30周年記念祝賀会が昭和56年11月20日(金)、ホテル・ニューオータニにおいて、また秋季研究発表会が11月21日(土)上智大学において開催された。研究発表会は「メディア・送り手」「内容」「受容過程」「歴史」の四つの部門について順に行なわれたが、本学からは津金沢聡広教授が「内容」部門の司会を担当し、真鍋一史教授は「受容過程」の部門において「政治情報と政治関与——昭和55年6月の衆参同時選挙調査の分析——」と題する研究発表を行なった。なお昭和57年度の春季研究発表会が関西学院大学において開催されることが決定した。

会員の所属学会一覧

杉原 方	日本精神神経学会	日本宇宙航空環境医学会
余田 博通	日本社会学会	Human Factors Society (U.S.A)
	関西社会学会	The Ergonomics Society (U.K)
	村落社会研究会	
	農業経済学会	半田 一吉
	むら研究会	日本英文学会
田中国 夫	日本心理学会	日本語学会
	日本社会心理学会	社会福祉学会
	日本教育心理学会	日本心理学会
	日本応用心理学会	行動療法学会
	関西心理学会	日本社会学会
西尾 朗	日本時事英語学会	関西社会学会
	日本カナダ学会	日本労使関係研究協会
定平 元四良	日本社会学会	社会政策学会
	日本社会学史学会	日本労務学会
嶋田 津矢子	全国社会福祉学会	経済社会学会
	日本キリスト教社会福祉学会	日本社会学会
萬成 博	日本社会学会	遠藤 惣一
	International Sociological Association	日本労使関係研究協会
	組織学会	日本労務学会
	日本労務学会	日本グループ・ダイナミックス学会
領家 穰	日本社会学会	日本社会心理学会
	関西社会学会	日本教育心理学会
	日本民族学会	日本応用心理学会
本出 祐之	日本社会福祉学会	日本行動計量学会
	日本心理学会	関西心理学会
	日本精神分析学会	関西社会学会
倉田 和四生	日本社会学会	森川 甫
	日本都市学会	日本フランス文学会
	日本人口学会	日仏哲学会
	関西社会学会	日本キリスト教学会
	近畿都市学会	日本福音主義神学会
杉山 貞夫	日本心理学会	Centre International de Blaise Pascal
	日本人間工学会	日本仏学史学会
	日本ME学会	日本カルヴィニスト協会
		中野 秀一郎
		International Sociological Association
		The Academy of Political Science

	日本社会学会		日仏哲学会
	関西社会学会		フランス哲学研究会
	日本政治学会		日本フランス語フランス文学会
	アジア政経学会		日本フランス語教授連合
	経済社会学会	西 山 美 子	関西社会学会
	日仏社会学会		日本社会学会
	保健・医療社会学研究会		組織学会
張 光 夫	日本社会学会		日本労務学会
	関西社会学会		日本労使関係研究会議
中 山 慶一郎	日本統計学会		日本グループ・ダイナミックス学会
	理論・計量経済学会	安 田 三 郎	日本社会学会
	応用統計学会		日本社会心理学会
	行動計量学会		日本グループ・ダイナミックス学会
宮 田 満 雄	日本英文学会		日本行動計量学会
	日本アメリカ文学会		American Sociological Association
	日本アメリカ学会		American Academy of Religion
	関西学院大学英米文学会	W.B. テーヴィス	Association of Asian Studies
船 本 弘 毅	日本キリスト教学会		Association for the Sociology of Religion
	日本新約聖書学会		日本政治学会
	日本組織神学会		日本社会学会
	日本ボンヘッファ学会		関西社会学会
	日本ルター学会		日本新聞学会
	関西新約聖書学会	真 鍋 一 史	日本広告学会
津金沢 聡 広	日本新聞学会		異文化間教育学会
	日本出版学会		日本選挙学会
	関西社会学会		International Society of Political Psychology
	関西教育社会学会		日本社会学会
春 名 純 人	日本哲学会		日本民族学会
	関西哲学会		日本民俗学会
	京都哲学会		関西社会学会
	阪神独文学会		むら研究会
	日本福音主義神学会	山 路 勝 彦	日本社会学会
	Vereniging Voor Calvinistische Wijsbegeerte		日本民俗学会
	日本カルヴィニスト協会		関西社会学会
紺 田 千登史	日本哲学会	海 野 道 郎	日本社会学会
	関西哲学会		日本行動計量学会

山本剛郎	日本グループ・ダイナミックス学会	高田真治	日本社会福祉学会
	American Sociological		日本計画行政学会
	Association	安藤文四郎	日本社会学会
	日本社会学会	芝田正夫	日本新聞学会
	関西社会学会		日本出版学会
	日本都市学会		日本図書館学会
	人文地理学会		日本社会教育学会
	人口学会		
	むら研究会		

執筆 者 紹 介 (掲載順)

蔵 内 数 太	名 誉 会 員	村 田 充 八	社 会 学 部 大 学 院 博 士 課 程 後 期 課 程
ヨアヒム・マツテス	エルランゲン・ニュー ルンベルグ大学教授	真 鍋 一 史	社 会 学 部 教 授
茨 木 竹 二	東京家政大学専任講師	海 野 道 郎	社 会 学 部 助 教 授
大 道 安 次 郎	名 誉 会 員	田 中 国 夫	社 会 学 部 教 授
栃 原 知 雄	名 誉 会 員	岩 渕 千 明	社 会 学 部 大 学 院 博 士 課 程 後 期 課 程
嶋 田 津 矢 子	社 会 学 部 教 授	倉 田 和 四 生	社 会 学 部 教 授
W.B.デーヴィス	社 会 学 部 教 授	山 本 剛 郎	社 会 学 部 助 教 授

社 会 学 部 研 究 会 々 員

会 長	倉 田 和 四 生		
評 議 員	真 鍋 一 史	田 中 国 夫	領 家 穰
	牧 正 英	春 名 純 人	村 山 冴 子
会 計 監 査	張 光 夫	中 山 慶 一 郎	
書 記	石 井 佐 兵 衛		
名 誉 会 員	青 山 秀 夫	大 道 安 次 郎	藤 原 惠
	小 関 藤 一 郎	蔵 内 数 太	岡 村 重 夫
	清 水 盛 光	栃 原 知 雄	(ABC順)
普 通 会 員	杉 原 方	余 田 博 通	西 尾 朗
	定 平 元 四 良	嶋 田 津 矢 子	萬 成 博
	本 出 祐 之	杉 山 貞 夫	半 田 一 吉
	武 田 健	遠 藤 惣 一	佐々木 薫
	森 川 甫	中 野 秀 一 郎	J. ジョイス
	宮 田 満 雄	船 本 弘 毅	津 金 沢 聡 広
	紺 田 千 登 史	村 川 満	西 山 美 瑛 子
	安 田 三 郎	W.B.デーヴィス	加 藤 春 恵 子
	山 路 勝 彦	海 野 道 郎	山 本 剛 郎
	高 田 真 治	安 藤 文 四 郎	芝 田 正 夫

関西学院大学社会学部研究会々則

- 第 1 条 本会は関西学院大学社会学部研究会とよぶ。
- 第 2 条 本会は社会学および隣接諸科学の研究ならびに会員相互の交流を計ることを目的とする。
- 第 3 条 本会は上記の目的を達するために次の事業を行う。
- 1 機関誌「関西学院大学社会学部紀要」の発行
 - 2 研究会および講演会の開催。
 - 3 研究叢書の刊行。
 - 4 その他本会の必要と認める事業。
- 第 4 条 本会の会員は次の 3 種とする。
- 1 名誉会員 本会の特に推薦するもの。
 - 2 普通会員 本会社会学部専任の教授、助教授、講師および助手。
 - 3 賛助会員 以上の外申込のあったもの。
- 第 5 条 普通会員は年額 19,200 円、賛助会員は年額 10,000 円以上の会費を納めなければならない。納付済の会費は返還しない。
- 第 6 条 本会員および本学社会学部大学院生・学部学生は機関誌の配布を受ける。学生の講読費は昭和56年度入学生より年額 1,600 円とする。
- 第 7 条 本会に次の役員をおく。
- 1 会長（1名）は、社会学部長をもってあてる。
 - 2 評議員（6名）は、普通会員の中から互選し、本会の運営に当る。
 - 3 編集、会計、庶務の各委員は、評議員の中から互選する。
 - 4 会計監査（2名）は、普通会員の中から互選する。
 - 5 書記は、社会学部事務長に委嘱する。
- 第 8 条 本会役員の任期は 2 年とする。重任を妨げない。
- 第 9 条 本会会計年度は 4 月 1 日に始まり翌年 3 月 31 日に終る。予算・決算は総会の承認を得なければならない。
- 第 10 条 総会は毎年 1 回とし、本会の重要事項を議決する。臨時総会の開催を妨げない。
- 第 11 条 本会は事務所を本学社会学部におく。
- 第 12 条 本会会則の変更は総会の議決によらなければならない。

1981年12月24日 印刷

1982年 1月20日 発行

編集発行人

倉 田 和 四 生

発 行 所

関西学院大学社会学部研究会

〒662 西宮市上ヶ原一番町

関西学院大学社会学部内

電話(0798) (53) 6111 (代表)

(内線) 4212

印 刷 所

株式会社 千 葉 出 版

〒652 神戸市兵庫区荒田町1丁目12-8

電 話 (078) 531-4789(代)

KWANSEI GAKUIN
SOCIOLOGY DEPARTMENT STUDIES

(SHAKAIGAKUBU-KIYO, KWANSEI GAKUIN DAIGAKU)

No. 43

December 1981

The Study Association of Sociology Department
KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY

Nishinomiya, Japan
